

EUの文民的安全保障政策 -規範的な中二階は持続可能か-

EUの安全保障政策は「中二階」である。主権国家である加盟国と、冷戦期以来の軍事同盟NATOに挟まれながら、統合欧州を安全保障主体として確立することを目指す。そこで纏う独自性が規範性である。「効果的な多国間主義」であり、「道義的实践主義 (principled pragmatism)」であり、安全保障政策における文民的側面の強調である。安全保障主体としてのEUの位置づけが過渡期的なものであるならば、果たして、その規範性は持続可能なのだろうか。EUの安全保障政策の全体像を振り返りながら、考察してみたい。

■日時： 2018年 **12月22日**(土) 13:30~15:00

■場所： 関西学院大学上ヶ原キャンパス
大学図書館3階 産業研究所データ解析室

■講師： **小林 正英** 氏
(尚美学園大学総合政策学部准教授)



■司会： **市川 顕** 氏
(東洋大学国際学部准教授／関西学院大学産業研究所客員研究員)

■参加費： 無料(一般参加可、申し込み手続き不要)

<講師プロフィール>

1992年筑波大学第三学群国際関係学類卒業。慶應義塾大学大学院にて博士号取得。在ベルギー日本国大使館専門調査員(欧州安全保障問題担当)を経て、2002年10月より現職(専任講師)。専門分野は欧州統合と安全保障。